

俵山中学校では、昭和57年からホタルの人工受精、放流を行うとともに、水生生物調査を実施し、河川の浄化・水質保全活動に取り組んでいます。

ホタル増殖の取り組み

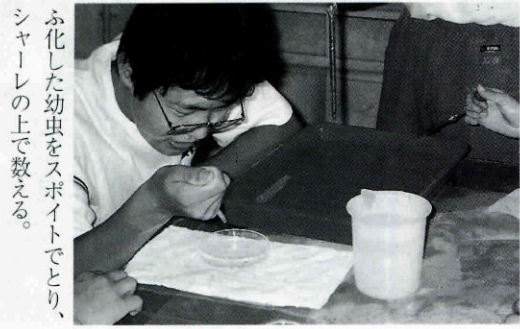
○ゲンジボタルの出現数の調査

6月から1か月間、生徒会活動として、夜8時から9時まで各生徒の家から見えるホタルを数え、調査用紙に記入する。

○ゲンジボタルの捕獲・飼育

出現数の調査時に捕獲し、水ゴケと一緒に飼育器に入れる。卵を産みつけた水ゴケを、水を入れたバットの上に置き湿度を調節しながら管理する。約1か月後ふ化し、幼虫が水の中に落ちる。幼虫を数えておく。1日おきにエサとなるカワニナを与え飼育する。

ある程度成長したら放流する。
(平成8年は8月に放流)



ふ化した幼虫をスポイトでとり、シャーレの上で数える。

俵山中学校2年

文化部部長 福田拓之さん

「ホタルの飼育を通して」



俵山中学校文化部のみなさん

私たち俵山中学校では、毎年ホタルの飼育活動をしています。生徒が各地区で出現したホタルを数えたり、ホタルの成虫を採集して卵を産ませ、幼虫を育てたりします。

ホタルの幼虫を飼育するのは難しく、とても根気がいります。エサになるカワニナを川に探しに行ったり、汚れた水をきれいな水に替えてやったりしています。失敗して幼虫を死なせてしまったこともあります。

しかし大事に育てて、そのホタルを川に放流するときには、

やり遂げた喜びを感じます。また、大きく育ってほしいと願います。そして、そのホタルが夜になって、光りを発しながら飛んでいるのを見ると嬉しくてたまりません。

最近、俵山のホタルの数も少しずつだけ減少しているようです。ホタルはきれいな川にしか住めないというけれど、俵山の河川も汚れてきたのでしょうか。ホタルがいなくならないように、少し考えてみると思います。

目的等での乱獲や農薬等の影響で、目に見えて減少していきました。

幸い長門市では、近年少なくなった貴重な文化財であるゲンジボタルを市民の財産として後世に伝えるべく、俵山中学校と深川中学校大畑分校の2校により、保護・増殖活動が行われています。

木屋川では、昭和57年よりゲンジボタルの増殖を始め、毎年多くの幼虫を放流してきました。その結果、ホタルの発生も多くなり、特に湯町や大羽山での増加が顕著でした。しかし、近年は河川の汚濁や改修により生息環境も年々悪化し、俵山において増殖活動を行っていますが、放流によって減少をどうにか補っている状況です。

三ノ瀬、大寧寺では、昭和57年よりエサとなるカワニナとホタルの幼虫を放流した結果、ホタルの発生を見るようになりました。また、洪水地区でも幼虫の放流により、近年多くのホタルを見られるようになり、特に四ノ瀬上流等では、大発生をするようになってきています。

深川中大畑分校

藤永禎史教諭